



企画展の会場

江戸時代後期から明治時代に製作された天体望遠鏡



山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで



文担当
岩村和政（学芸員・天文担当）
△次回は22日です。

冒頭で紹介したニコン社製20英寸屈折望遠鏡をはじめ、当館には、歴史的価値のあるものから現代のものまで、およそ21種31点の天体望遠鏡を収蔵しています。それらの中から紹介する1点目は江戸時代後期～明治時代に製作されたと思われる真ちゅう製

天体望遠鏡

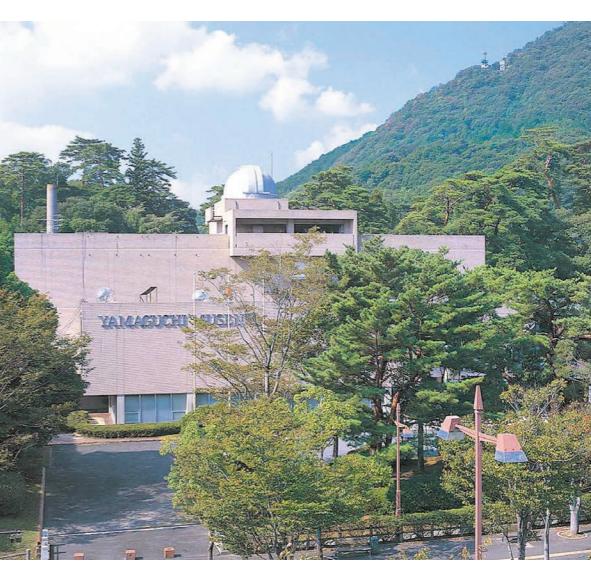
天体望遠鏡

2段式の天体望遠鏡です。対物レンズは2枚合せて色消しレンズのようで、接眼部にサングラス（太陽観察用の遮光ガラス）が組み込まれていることから、明らかに天体観測用です。この接眼部には接眼レンズ（凹レンズ）が四つ取り付けられています。倍率が変えられるといつ珍しい機構が付いています。また、毛筆の取扱説明書が残されています。

天体ドームと望遠鏡

天文分野の展示を見たお客さまから、山口博物館の天体ドームや大型屈折望遠鏡は「どこにあるの？」と質問されることがあります。これらは展示室では見ることができませんが、本館の屋上に直径5㍍の天体ドームが

あります。そのドーム内にニコン社製の20英寸屈折望遠鏡が設置されています。屋上にないので、博物館前のパーカード辺りから見上げないと天体ドームの存在には気が付きません。



博物館の外観。屋上に銀色の直径5㍍の天体ドームがある



ニコン社製20英寸屈折望遠鏡

年に本館の建設とともに設置され、55年経過した現在でも観望会で活躍しています。望遠鏡のレンズは直径20センチ、筒の長さは3メートル、重量1トントンという大変大きなものです。他の小型望遠鏡は観測準備室に庫で大切に保管しているので、皆さんが当館の天体望遠鏡を見ることができる機会は、残念ながら観望会のときだけでした。

今回、このよつなやまほくの天体望遠鏡のうち、特に珍しい2点について紹介します。

天体望遠鏡はどこにある？

「ほっとやまほく」
タイム③



やまほくの天体望遠鏡